

氏 名：嶋津 多恵子

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 146 号

学位授与年月日：2016 年 9 月 20 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）

副査 松谷 美和子（聖路加国際大学教授）

副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 佐伯 和子（北海道大学教授）

論 文 題 目：行政におけるプリセプター保健師の能動的実践：先行要因と帰結との関連

博士論文審査結果

日本では保健師の系統的な現任教育の検討が重ねられ、プリセプターの導入により、プリセプター自身の経験による学習が注目されつつある。しかし、プリセプターが経験している学習プロセスの研究はまだ行われておらず、それを明確にできれば、プリセプターの支援、人材育成の体制や環境について提言できる可能性がある。そこで本研究は、行政保健師のプリセプター経験を経た学習に基づく行動としての能動的実践とその関連要因を明らかにすることを目的とした。

研究方法としては、まず、予備研究として、質的研究を経て作成した「行政におけるプリセプター保健師の能動的実践尺度 (PHN-PAES)」について、プリテストを経て、妥当性の検討、質問項目の精選を行った。本研究では、全国の自治体に所属する平成 24 年度以降にプリセプターの経験をもつ保健師を対象に、自記式質問紙調査を実施し、379 名から 有効回答を得た。共分散構造分析により、プリセプター保健師の能動的実践と先行要因および帰結との関連についてモデルを構築した。能動的実践の尺度は 4 つの下位尺度「新任 保健師育成の役割遂行」「保健師としての自己研鑽」「新任保健師育成の共有」「人材育成 環境の改善」からなり、これらは相互に関連しながら、帰結としての「保健師の専門性発展力尺度」と組織コミットメントとしての「組織を背負う意識」と有意な関連を示していった。また、能動的実践と帰結の先行要因としては、キャリア、組織で育成された経験の認識、新任保健師の年齢、プリセプター研修、人材育成環境で有意な関連がみられた。

審査では、修正点として、尺度の命名が経験学習サイクルモデルのうち能動的実践の概念を表すよう命名を見直すこと、プリセプター経験における経験学習のプロセスを具体的に記述すること、下位尺度の因子数を概念に沿って見直し再分析すること、先行要因も含む仮説モデルの検証、最終モデルの構築を試みることなどが指摘された。これらを検討した上での修正が確認され、本研究は、プリセプター経験による学習の評価指標として活用可能な尺度を開発したことにより、プリセプター経験のキャリア開発としての意義および必要な支援体制を示す先駆的な研究として高く評価できた。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な 高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。